

子ども図書館開館記念

いわさきちひろ展

— 親と子の絆 —



「小鳥と少女」『ことりのくるひ』（至光社）より 1971年

会期 / 平成27年 **7月26日(日)** ～ **8月30日(日)**

休館日：博物館・毎週月曜日、ただし7月27日(月)は開館
こども図書館・毎週水曜日

会場 / 滑川市立博物館3階企画展示室
一部子ども図書館

〒936-0835 滑川市開676
TEL076-474-9200 FAX076-474-9201

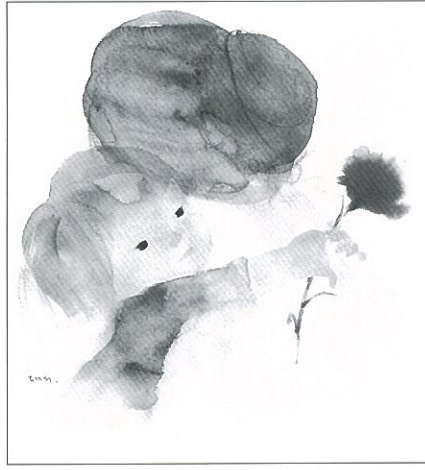
開館時間 / 博物館 10時～18時 (初日は開会式13時)
子ども図書館 平日 9時～19時
日・祭日 9時～18時

観覧料 / 無料

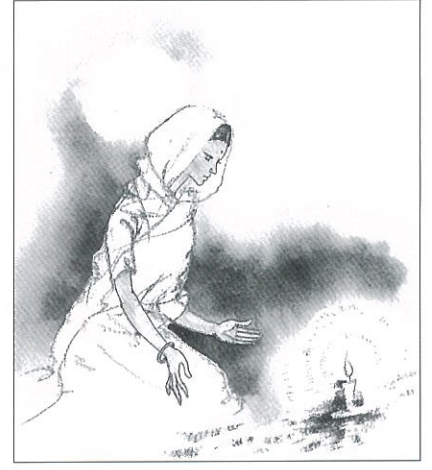
- 7月26日(日) 14時～
「母・ちひろの人生
—その絵が語るもの」
松本猛氏 (ちひろ美術館常任顧問)
(博物館)
- 7月26日(日) 15時～
「ギャラリートーク」
長井瑠子氏 (ちひろ美術館学芸員)
(博物館)
- 8月9日(日) 11時～
「ちひろ絵本よみかかせ」(シヨコラ)
(子ども図書館)
- 毎週 土・日曜日 14時～
DVD放映
「いわさきちひろ27歳の旅立ち」
(博物館)



「ひまわりとあかちゃん」 1971年



「母の日」 1972年



「インドの少女」
『絵のない絵本』(童心社)より 1966年

いわさきちひろの絵

いわさきちひろ(本名 岩崎知弘)は、1918年(大7)福井県武生町(現越前市)で生まれ、1974年(昭49)肝臓ガンのため55歳で死去しました。

幼い頃から読書や絵に興味を示し、若い頃に岡田三郎助や中谷 泰など高名な画家にデッサンや油絵を学び、また書にも情熱を注ぎ一時は書家として生活することを考えました。

ちひろの作品をよく観察すると、そこには若い頃に学んだ確かなデッサン力と、細部にこだわらないほかしやにじみの表現には書の影響がみられます。また多くの人にはちひろの作品は単に無垢で平和な子供の世界や、楽しいメルヘン(おとぎ話)の世界や、親子の情愛を描いただけのように感じられるかもしれませんが、たしかにこれはちひろの天性の資質で、いずれの作品にも色濃く反映されています。しかし、ちひろの作品の裏には、実は第二次世界大戦中に女子義勇隊という美名のもとに同行した満州(勃利)で目にした悲惨な現実や、東京大空襲で爆弾の下を逃げ回った忌まわしい記憶が秘められているのです。ちひろの多くの作品には、一瞬にして親と子や親しい人々を引き裂いてしまう戦争の悲劇を、二度と繰り返してはいけないという強いメッセージが込められています。

ちひろは『青春時代のあの若々しい希望を何もかもうち砕いてしまう戦争体験があったことが、私の生き方を大きく方向づけているんだと思います。平和で、豊かで、美しく、可愛いものがほんとうに好きで、そういうものをこわしていこうとする力に限りない憤りを感じます。』と述べ、また『おとなというものにはどんなに苦勞が多くても、自分の方から人を愛していける人間になることなのだと思います。』と人生に寄せる深い想いと、生きて在ることの幸せとかなしみを語っています。

日本の長い美術史上において子供をテーマとして、人類の平和と反戦を訴え続けた画家はおそらくいわさきちひろ一人でしょう。本展は子ども図書館の開館を記念して開催するものであり、珠玉の作品60点(ピエゾグラフ・高精密複製画)によって、あらためて生命の尊さや人を愛することについて考える機会になれば幸いです。



「少年」『戦火のなかの子どもたち』
(岩崎書店)より 1973年



自宅でスケッチブックを抱えるちひろ
1960年(41歳)

いわさきちひろ略年譜

- | | | | |
|----------|--|----------|---------------------------------------|
| 1918(大7) | 福井県武生町(現越前市)に生まれる。 | 1971(46) | 52歳 『こたりのくるひ』がポローニア国際児童図書館でグラフィック賞受賞。 |
| 1919(8) | 0歳 東京・渋谷町(現渋谷区)に転居。 | 1974(49) | 55歳 肝臓ガンのために死去。享年55歳。 |
| 1933(昭8) | 14歳 岡田三郎助にデッサン・油絵を習う。 | | 『戦火のなかの子どもたち』でライプチヒ国際書籍展銅賞受賞。 |
| 1936(11) | 17歳 府立第六高等女学校卒業。朱葉洋画展に入選。 | 1977(52) | 東京の自宅跡地に、いわさきちひろ絵本美術館(現 ちひろ美術館・東京)開館。 |
| 1937(12) | 18歳 小田周洋に藤原行成流の書を習う。 | 1997(平9) | 安曇野ちひろ美術館開館。 |
| 1944(19) | 25歳 女子義勇隊に同行して中谷泰と共に満州(勃利)に渡る。戦況悪化のため帰国。 | | |
| 1945(20) | 26歳 空襲で家を焼かれ、母の実家(長野県松本市)に疎開。 | | |
| 1946(21) | 27歳 上京して人民新聞の記者となる。 | | |
| 1950(25) | 31歳 紙芝居「おかさんのほなし」で文部大臣賞受賞。 | | |
| 1956(31) | 37歳 雑誌等に発表した作品を対象に小学館児童文化賞受賞。 | | |
| 1961(36) | 43歳 『あいうえおのほん』でサンケイ児童出版文化賞受賞。 | | |
| 1963(38) | 44歳 世界婦人会議参加のため旧ソビエトを訪問。 | | |
| 1964(39) | 45歳 日本児童出版美術家連盟の理事として画家の著作権擁護に取り組む。 | | |

「ちぎり絵で遊ぼう」

講師 板坂英子先生

- ・8月1日(土) 14:00~
- ・市民交流プラザ3階 研修室2
- ・定員20名(申込み順 TEL474-9200 博物館まで)
- ・参加費 無 料(どなたでも参加できます)

※作品は博物館で展示します。